

トビタテ選考体験記（17期・ダイバーシティコース）

学部・研究科：国際人間科学部

学年：3年（応募時）

はじめに

私は、1年生の冬に国際交流課の方々が開催していたトビタテのZOOM説明会に参加し、その存在を知りました。ただ当時は「とてもレベルの高い奨学金で、自分には到底無理だろう」と思っていました。

ところが、2年生の秋にウガンダのマケレレ大学へ私費留学することを決意したことをきっかけに、トビタテへの応募を決めました。交換留学向けの奨学金は大学や自治体などから多種多様がありますが、私費留学を対象にしたものは当時トビタテ以外になく、絶対に合格したいという強い気持ちでした。私費留学やインターンを考えている方にとって、独自性や自由度の高いトビタテはとてもおすすめです。

書類審査について

私は締切の約2ヶ月前から準備を始めましたが、本当に大変で、最終的には締切1分前にギリギリ提出するほどでした。書類審査では、自分の留学の軸や内面と徹底的に向き合う必要があります。私は応募書類に沿った回答を考えるのが苦手で、最初は的外れなことばかり書いてしまいました。トビタテは「奇抜で大きな夢を語る人が有利」と思われがちですが、大切なのはインパクトよりも、自分が本当にやりたいこと、情熱を注げることに正直に向き合うことです。

また、この書類を一人で仕上げるのは大変なので、ぜひいろんな人を頼ってください。トビタテ同窓組織「とまりぎ」やトビタテの公式インスタでは書類審査対策会も開かれていますので、参加をおすすめします。私は対策会で知り合った先輩5人ほどに添削してもらいました。もちろん私も、これから応募される皆さんのお力になればと思うので、ぜひご連絡ください。

ただし注意点として、むやみに多くの人に見てもらいすぎると自分の軸がブレてしまいます。先輩トビタテ生は多様な分野・コースで留学しているため、留学計画は人それぞれです。アドバイスは参考程度に、自分の留学は唯一無二であることを忘れないようにすることが大切だと思います。

また、キャリアセンターの寺田順子先生には、書類作成から面接対策まで本当にお世話になりました。初めて見ていただいたのは締切の1週間前でしたが、書類の答え方だけでなく留学計画そのもののブラッシュアップに至るまで丁寧にアドバイスをいただきました。そのおかげで大幅な修正ができ、最終的に合格につながったのだと思います。

書類審査に行き詰まったら、ぜひ寺田先生に相談してみてください。

面接について

私は書類審査後に受け入れ期間を変更したため、留学計画が大きく変わり「もう落ちるだろう」と諦めていました。しかしここでも寺田先生に励まされ、どのようにアピールすれば良いか指導していただき、再び頑張る気持ちを取り戻せました。

書類審査に通ったということは、留学計画そのものは評価されているということです。あとは自信を持って面接に臨みましょう。私は多くの人に見てもらいすぎて自分の軸を見失ってしまいましたが、信頼できる人に数回チェックしてもらったら、その後は自分の気持ちを高める時間に充てるのがおすすめです。

面接は個人面接とグループ面接の2種類があります。

個人面接は面接官によって雰囲気は異なりますが、少なくともダイバーシティコースを受けた仲間は「面接官が優しくかった」と口をそろえて言っていて、私自身も終始和やかな雰囲気の中で臨むことができました。イノベーターコースは、圧迫面接が多いそうです。

私は事前に3分・5分・7分で留学計画を話す練習をしていましたが、当日は時間指定などではなく、留学計画を説明するように求められたため、用意していたプレゼンテーションを使いつつ、その場で付け足しながら説明しました。

大学生が自分で考えた計画は、先輩トビタテ生や社会人の目から見れば突っ込みどころがあるのは当然です。そのため、面接では指摘されたり論破されたりすることもあると思いますが、それ

を「ありがたい意見」と受け止め、論破し返そうとせずに自分の気持ちや意見を真摯に伝えることが大切だと感じました。

また、ある企業の方から「合格と不合格ギリギリの学生は、困難に直面した時に乗り越える力があるかを見ている」と伺いました。なので、どれだけ自分の留学計画に情熱を持っているのかが見極められるのだと思います

グループ面接（6 人）は和やかな雰囲気、面接官の方々は笑顔で声をかけてくれました。内容としては以下の 3 点について、2 分間の準備時間を経て 3 分間で発表しました。

1. どのような留学にしたいか
2. （できれば原体験を交えて）トビタテを選んだ理由
3. 留学計画を作成する中で気づいたこと

その後は質問・意見交換を行い、最後に全員が「この面接を通じて得たこと」を発表しました。評価されていると感じたのは「発表内容そのもの」よりも、他者の話を聞く力・コミュニケーション力・限られた時間で伝える力 です。

集団面接は「誰かを落とす場」ではなく「みんなで受かる場」です。実際に合格後に走行会や事前研修に参加してみて、トビタテは合格後のトビタテ生とのつながりを非常に重要視していると感じました。合格後には事前研修・事後研修など、お互いにアドバイスし合い、高め合う場が多々あります。そのため、協調性や仲間への敬意を持てるかどうかも見られていると感じました。

最後に

トビタテの書類・面接準備は本当に大変で、約半年間ずっと頭の中がトビタテでいっぱいでした。しかし、その過程で留学計画を何倍もブラッシュアップでき、自己を見つめ直す機会となり、大きな成長につながりました。可否以上に、この努力そのものに意味があると思います。

トビタテは多くの方々の協力と支援で成り立っています。キャリアセンターの先生方、国際交流課の皆さん、企業の面接官、トビタテ OB・OG、そして周囲で支えてくれる人たちへの感謝を忘れず、さらに、同じ応募者への敬意を持ちながら真摯に自分の留学と向き合うことが、最も大切だと思います。

最後まで諦めず、頑張ってください。応援しています。